

少子化と低出生体重児予防のための、 妊孕世代の妊娠に対する知識・認識と食事の現状

久保田君枝^{*、1)}、三輪与志子¹⁾

¹⁾聖隷クリストファー大学

1. 目的

本研究は20歳～30歳代の妊孕世代の勤労男女に、自分の身体の認識と妊娠に対する知識・認識について質問紙調査を行う、食事調査は「栄養摂取の現状」を把握するために、デジタルカメラで食事内容を撮影する、食事のデータと「妊娠（生殖機能）に対する知識」や「自分の身体が妊娠可能な身体であるという認識」を関連づけて分析を行う。得られた結果を基に、妊娠に相応しい栄養の知識や妊娠に関する正しい知識の実態を提供し、健康教育や個別指導に繋げるための一助とすることを目的とする。研究期間を2015年～2018年の4年間を計画している。従って、今回は研究初年度の中間報告である。

2. 研究方法

1) **調査対象**：浜松市を中心とした静岡県西部地区に設置している企業および事業所20ヶ所、(1)質問紙調査の対象：20～30歳代の妊孕世代の男女2,000人、(2)食事調査の対象：質問紙調査に回答し、更に食事調査の同意を得られた男女200人(1)(2)とも妊娠中の人を除く。

2) **調査期間**：2015年4月～2018年3月

3) **調査方法・内容**：(1)**質問紙調査**：自記式質問紙（無記名）による郵送調査法。調査内容は、属性、自己の身体に関する認識、妊娠に対する知識・意識など。(2)**食事調査**：イベントの無い、普段の生活の中での連続した3日間の食事と間食を含めたすべての食事を、デジタルカメラもしくは携帯電話等のカメラで撮影し、SDカードに収録して郵送または、メールで送信してもらう。得られた2種類のデータから、自分の身体の認識や妊娠に対する知識・意識が、食事摂取とどのように関連しているかを分析する。

3. 研究経過

1) **質問紙調査プリテストの結果**：(1)質問項目の修正：①スキップ項目の修正など、(2)結果：プリテスト実施者12名(男性4名、女性8名)、朝食を毎日食べるは5名、ほとんど食べていない2名、他の5名は週に2日以上欠食するとの結果であった。また栄養バランスを考えて食べているかの問いに対して、考えている3名、あまり考えていない9名であった。妊娠関連の問いに対しては、妊娠しにくい期間を正しく答えた者は1名のみで、他の11名は月経中は妊娠しないと答えていた。将来子どもがほしいかの問いに、11名が子どもがほしい(1名無回答)と答えていた。

2) **リクルートの準備**：浜松商工会議所や浜松市産業医との打ち合わせと情報収集を行った。浜松市のホームページ、浜松商工会議所の企業一覧等から、浜松市の特色である製造・販売業で従業員50名以上の企業を抽出し、健康管理室（産業医）または総務部と交渉中、また大学教員からの紹介企業などリクルート中である。

3) **今後の予定**：倫理的配慮を行い、調査を実施していく。

本研究は平成28年度科学研究費助成事業 基盤（C）の助成を受けて行う。